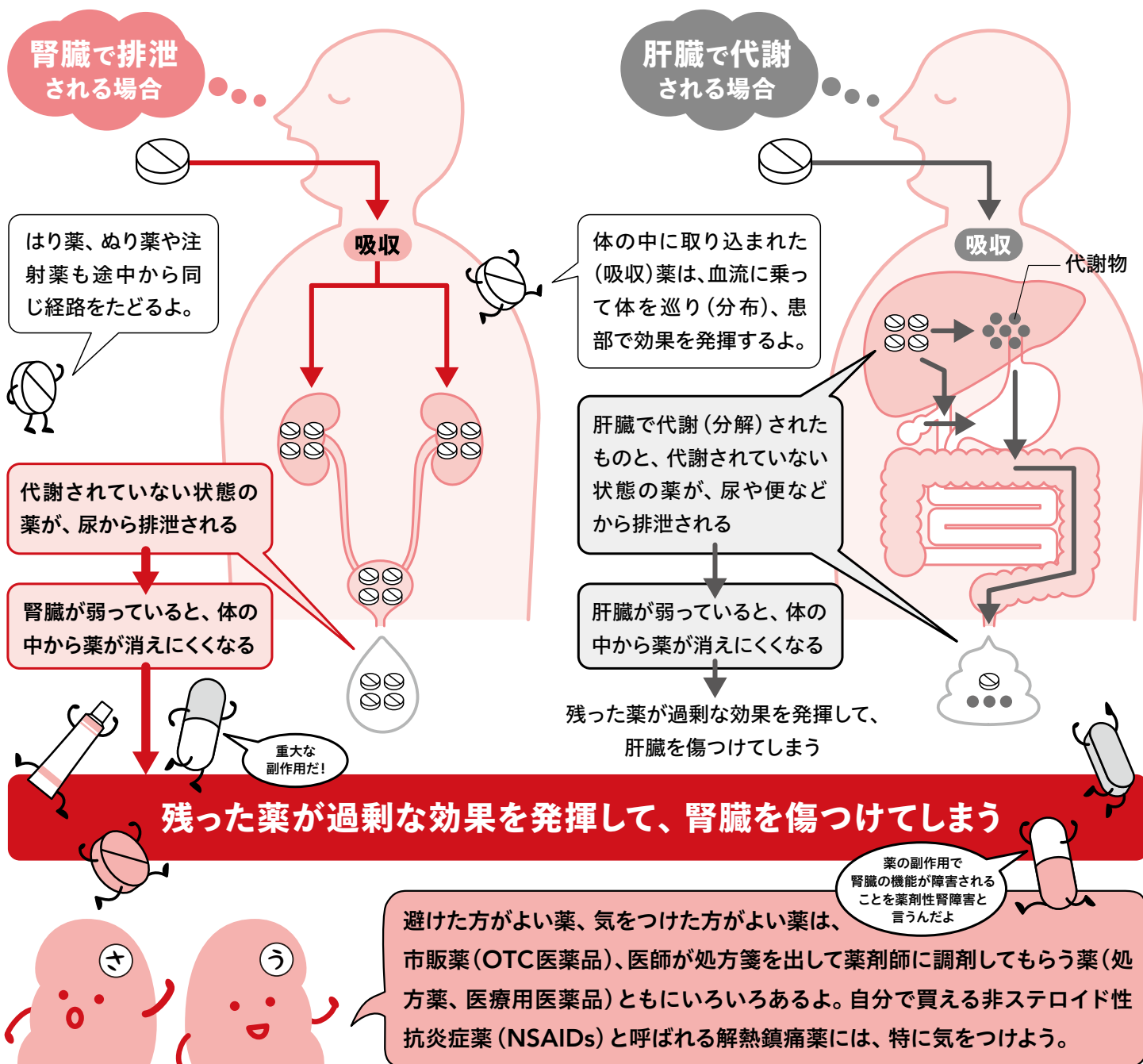


腎臓が弱っていると 薬でダメージを受けやすい

体の中に入った薬が消える経路（排泄・代謝）はおもに2種類です。



監修

長澤 将

東北大学病院 腎高血圧内分泌科 講師

大武 陽一

たけお内科クリニック からだと心の診療所 院長



みんなでつくる、これからの医療

with Kidney プロジェクト

<https://www.jinlab.jp/withkidney/>

患者と医療者がつくった腎臓病とのつきあい方ガイド



運営

一般社団法人ピーベック

P P e C C
ピーベック<https://ppecc.jp/>

制作

腎臓病情報サイト「じんラボ」

じんラボ

腎臓病に関わる人の幸せのための

<https://jinlab.jp/>

薬での治療を安全に続けるために

食事が摂れないシックデイには 速やかに医療機関を受診



風邪などの感染症で体調を崩し、食事を摂れない体調の悪い日(シックデイ)には、降圧薬や血糖降下薬に特に注意しましょう。薬の中止は医療機関で判断します。

処方箋も、市販薬の相談も、 「かかりつけ薬剤師・薬局」に

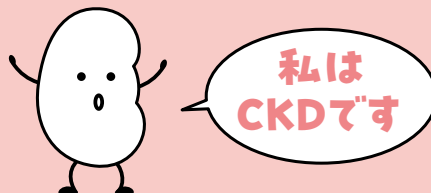


かかりつけ薬剤師・薬局は、あなたのことをよく知る薬のパートナーです。処方箋での薬以外にも、市販薬(OTC医薬品)選びの相談にも乗ってもらいましょう。

薬を使って異常を感じたら すぐにかかりつけの専門家に相談

「何という薬を」「どのくらいの量・期間使用しているか」「どのような症状が出たか」を伝えましょう。医師から処方された薬で異常を感じた場合、急にやめると治療中の病気を悪化させてしまうことがあります。自己判断でやめたりせず、必ず医師に相談してください。

直近(2・3回程度)の検査値は 肌身離さず持ち歩きましょう



病気の情報だけでなく、直近の検査値もあると、あなたの状態をより正確に伝えることができ、さらに安心につながります。



慢性腎臓病(CKD)の方や高齢の方などは、薬をたくさん使っている分、副作用はもちろん、薬や食品の良くない組み合わせでの相互作用の心配が出てきます。それを防止するためにも、かかりつけ薬剤師による一元管理、お薬手帳を効果的かつ最大限に利用しましょう。

こちらも
チェック!



「CKDとお薬手帳」



「かかりつけ薬剤師・薬局」

監修

長澤 将

東北大学病院 腎高血圧内分泌科 講師

大武 陽一

たけお内科クリニック からだと心の診療所 院長

運営

一般社団法人ピーベック

制作

腎臓病情報サイト「じんラボ」



みんなでつくる、これからの医療

with Kidney プロジェクト

<https://www.jinlab.jp/withkidney/>

患者と医療者がつくった腎臓病とのつきあい方ガイド



<https://ppecc.jp/>



腎臓病に関わる人の幸せのための

<https://jinlab.jp/>

